

神社の杜(四十七)

「鬼の善意」東村山市の昔話から(その二)

片柳 茂生

さて前号は、お宮参りに行った帰り道、村人達は、谷底で冷たい氷を俵に一生懸命詰めている鬼達を見かけた所までお話ししましたね。今回はその続きです。

氷のかたまりを取ってきてでつけえ俵に一所懸命つめ込んでいた鬼達を見たお百姓さんたちは怖々鬼に聞いてみました。

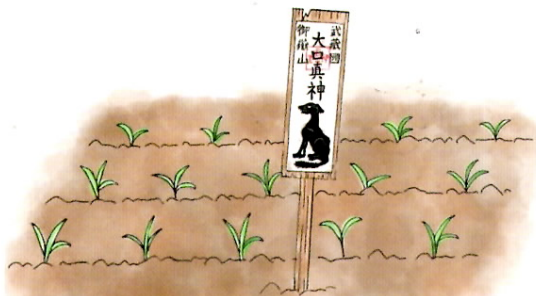
「この氷を雲の上からばらばらまいて雹ひょうにするってえと、百姓や人間どもが嘆き悲しむんで、おもしろえつたらありやしねえや」

そう言い終わるつてえと、その鬼はでつけえ赤い口を開けて、さもうれしそうに笑いだしたのだと。

その話を聞いてびびくりしたのは村の者だ。雹ひょうなんか降った日によあ、その年の作物はみな駄目になっちゃうんで、たちまち皆の顔は青鬼よりも青くなつちまつたぐれえだ。それでもまた恐る恐る鬼ん中でも一番親切そうな顔をした鬼に聞いてみただと。

「雹ひょうの害を防ぐにや、どうしたら良かんべえ」

あんまり村の者が真剣だったんで、その鬼も可哀想に思つたらしくて、しばらく腕組みをしていた



イラスト：紺野美織

んだけんど、

「神社で嵐よけのお札をもらつてそれを田畑に立てておきやあいのさ」

と、小せえ声でほかの鬼に聞こえねえように教えてくれたのだと。その話を聞く

ちゅうと、村の者たちは一目散にさつきお参りしてきた神社まで駆け戻つて、村中の畑の数だけお札をもらつてきたのだと。

そんで、秋津に帰つてからそのお札を竹にはさみ、杉の葉をかぶせて村中の畑に立てておいたのだと。

そうするつてえと、あの鬼の言つたとおりそん年にやあ一つぶの雹ひょうも降んねえで、おかげで村中は大豊作つてえことになつたのだと。村人たちは大喜びして、そん年の村祭りはいつもより賑やかにやつたのだと。中でもあの鬼にお札のことを教えてもらつてきた村の者は、鬼さんありがとよ、と心の中で手を合わせて、親切な鬼に感謝したのだと。

ところで雹ひょう除けに使つたお札をもらつたお宮は榛名神社だちゅう話だけんど、御嶽神社のお札も使つているのだわ。

畑の中に立てた竹にはさんであるお札、今でも時々目にする風景です。ずーと昔から続いていたんですね。

本年秋季より

「奉納幟旗」

受付を開始いたします

ご奉納いただきました幟旗は、お名前を入れて神社までの参道に設置させていただきます。

詳しくは神社までお問い合わせ下さい。

※ 風雪で痛んでしまった場合は取り外させて頂きます。

奉納 幟旗のぼりばた

祝 武蔵御嶽神社

西年式年大祭

心願成就

一本 五〇〇〇円

表紙写真

「浦安の舞」

鶴巻育子

平成二十六年(2014)の秋季大祭で舞を披露した宮司のお孫さん。ファインダー越しに見える初々しくも堂々とした姿がとても美しかったのを覚えています。

あとがき

参道脇には樹齢四百年を越える杉檜が聳えています。今年春宝物殿横の一本の檜が伐採されました。斜めに傾いていたため危険を回避することが目的でしたが、来年度年祭を迎えるにあたり、この御神木を特別祈禱御守りとして奉製し頒布することとなりました。東松山市東平御嶽講中 講元 柳澤 満様、所沢市下安松愛宕山御嶽講中 講元 森田道昭様、鶴巻育子様、齋藤慎一先生、片柳茂生様、玉稿を有難うございました。

平成二十八年 九月二十九日発行
〔年二回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四三八(七八) 八五〇〇
FAX 〇四二八(七八) 九七四一

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashimikakejinja.jp/